

---

# 生と死

seiko

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

生と死

### 【Nコード】

N1338K

### 【作者名】

seiko

### 【あらすじ】

世界から認められた名医の話。

医者と殺し屋、どちらが正しいのかというのがテーマです。

はじめて作ったので、コメントよろしくお願いします

あるところに、とても腕の立つ医者がいた。彼は、今までに数千回の手術を成功させた、世界中から認められた名医だった。

そんな彼が、この世でもっとも嫌いな職業があった。それは、安楽死専門の殺し屋。殺し屋と言っても、それらは、依頼者を安楽死させる。たいがいの依頼者は、人生に絶望した人々で、殺してほしい、死にたいと思っている人たちだった。最近、こういうタイプの殺し屋が増えてきていると言う。

人の命を救うことが仕事の彼にとっては、とても許すことのできない存在だった。

そんな彼のところに、ある日、1人の少女がやってきた。その少女は、10さいで、大きな瞳が特徴的なかわいらしい女の子だった。

しかし、そんな彼女は、重い病気にかかっていた。しかも、その病気は、治療法がまだ無かった。しかし、そろそろその少女は、病気も末期で、余命も少なかった。

彼は、その少女を助けることを決意した、さまざまな研究で、治療法を必死にさがした。しかし、しばらくまったくと言っていいほど結果は出ず、彼も半分あきらめかかっていた。

そんな時、彼は少女から、とんでも無いことを聞いた。

「この前、知らない男の人が来て、言ったの。『お譲ちゃんを楽にさせてあげる。今の生活は、もう終わりだ。そっちのほうがいいだろう?』って。」

少女は、その男が何を言ったのか分からなかったろうが、彼はその男の言うことがどういう意味なのかはすぐに分かった。

それが、あの、安楽死専門の殺し屋だ。

そのことを知ったとたん、彼は急にあせりだした。いつ、その殺し屋がやってくるかわからない。そして、まだ中途半端に出来上が

っている治療法を、少女に試すことを決行すると言い出した。

少女の両親、医療関係者、その他は、彼を止めた。しかし、彼は、ついに少女の手術をしてしまった。なぜか、彼には自信があった。それは、自分が名医であると言うおごりからだったのかもしれない。そして、手術がはじまり、ついに何事も無く手術は終了、したかと思われた。しかし、手術終了の直後、少女は突然血を吐き、体中に発疹が出てきて、なすすべもなく死んでしまった。

それから、彼の名医と言う称号は剥奪され、社会からの非難は想像を絶した。

そして、ある夜、彼が自宅のベッドの中でうなされていたら、インターホンが鳴った。彼は起き上がり、ドアまで歩いていった。

「誰だ。今、私は気分が悪いんだ」

低い男の声が返ってきた。

「兄さん、とても苦しいようですね。いい話があります。楽になりますよ。どうぞ……」

彼はドアを開け、目の前の男に静かにうなづいた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1338k/>

---

生と死

2011年1月4日02時31分発行